

万華鏡

甲府商業高校 図書室
令和8年6月
NO. 2



6月は梅雨の季節。

これ以後約1か月間は雨の多い日が続きます。

屋外活動のできない日は、図書室で読書を楽しんでみませんか？

みなさんがたくさんの本と出会えるよう、図書室では新着図書を揃えてお待ちしています。

お知らせ



① 本の一行目クイズコーナー

本の一行目クイズコーナーを図書室入口前の廊下に設置しました。

司書グループが作成した「ミステリー読書マップ」で取り上げた本の中から最初の一行目のみで題名を当てるといものです。図書室カウンター前にはヒントも用意してあります。

クイズへの多数参加をお待ちしています！

② 小論文対策コーナーの紹介

小論文対策のための特設コーナーを設けました。小論文の書き方や小論文を書くために読んでおきたい新書があります。まずは手に取ってみてください。

※小論文に必要な本や読みたい本がある人は早めに司書に相談してください。

③ プリテッシュヒルズ研修旅行記の展示

本校では、プリテッシュヒルズ語学研修を実施しています。

この施設は「パスポートのいらない英国」と呼ばれており、日本にいながらにして英国さながらの雰囲気・文化に触れることができます。3月にこの研修に参加した生徒の「旅行記」を展示しましたのでご覧ください。



新着本紹介

『イン・ザ・メガチャーチ』 朝井リョウ／著 日経BP 日本経済新聞出版

書籍紹介：2026年 本屋大賞1位

久保田慶彦（47）レコード会社勤務。とある能力を買われ、アイドルグループ運営に参画することに。武藤澄香（19）留学を志す大学生。内向的な気に悩むうち、一人のアイドルに出会う。隅川絢子（35）契約社員。舞台俳優を熱烈に応援中だが、ある報道で状況が一変する。ファンダム経済を築く者、のめり込む者、のめり込んでいた者…三者三様の視点で浮かび上がる。人間の心を動かす“物語”の功罪。

『熟柿』

佐藤正午／著

KADOKAWA

書籍紹介：2026年 本屋大賞2位

息子の顔見たさに何かひとつ事を起こせばそのたびにパトカーがやってくる。わたしはこれまで三回パトカーに乗った。そのことが繰り返される。それがわたしの人生になる。

わたしはパトカーに乗り慣れた老人になどなりたくないし、そんな母親の姿を息子に見せたくもなかった。そんな母親が自分の産みの母親だと知られるべきではなかった。

人生を踏み外した女性の静かな決意。

『鳩の撃退法』（山田風太郎賞受賞）『月の満ち欠け』（直木賞受賞）著者による最新長編小説。

『PRIZE—プライズ』

村山由佳／著

文藝春秋

書籍紹介：2026年 本屋大賞3位

天羽カインは憤怒の炎に燃えていた。本を出せばベストセラー、映像化作品多数、本屋大賞にも輝いた。それなのに、直木賞が獲れない。文壇から正当に評価されない。

私の、何が駄目なの？…何ととしてでも認めさせてやる。全身全霊を注ぎ込んで、絶対に。

あまりのリアリティに業界震撼！

- ★『ぬすびと』 寺地はるな/著 双葉社
 - ★『うた子と獅子男』 古谷田奈月/著 河出書房新社
 - ★『失われた貌』 櫻田智也/著 新潮社
 - ★『しぶん時間を生きる』 佐宗邦威/著 あさま社
 - ★『生きとるわ』 又吉直樹/著 文藝春秋
 - ★『大河の一滴 最終章』 五木寛之/著 幻冬舎
 - ★『はくしむるち』 豊永浩平/著 講談社
 - ★『探偵小石は恋しない』 森ジバル/著 小学館
 - ★『カウンセリングとは何か 変化するということ』 東畑開人/著 講談社
 - ★『やりたいことが見つかる世界の果てのカフェ』 ジョン・ストレルキー/著 ダイヤモンド社
- など…

司書教諭の独り言 ①

大学生のひと月の本代が、初めて1000円を切った、という報道がありました。1000円というと新書1冊分です。そんな、本を読まない時代に、このコラムでは、本を読むことの意味や楽しさを伝えていきたいです。

まず、本校も取り組んでいる「朝読」のこと。これは、埼玉県にある船橋学園女子高校（当時）の林公（はやし ひろし）先生が始めた運動です。遅刻が多く、授業中も私語が多かったことに悩んだ林先生は、解決策として朝の読書を始めました。「みんなでやる」

「毎日やる」「好きな本でよい」「ただ読むだけ」、これが朝読の4原則です。朝読を3年間続けた生徒の、すばらしい文章（「自分の宝物の中に、好きな本や、作者などが増えています」など）が林先生の著書に紹介されています。

だまされたと思って、朝読を続けてみませんか。

林公『朝の読書—その理念と実践』（リベルタ出版）



返却期限が過ぎていませんか？

オリエンテーションで借りた本を返していない人はすぐに返却しましょう。

